

# 留学先決定に至るまでの経緯

2015 年度 Funai Overseas Scholarship 奨学生  
種田 修三

2015 年春に北海道大学を卒業した種田修三と申します。同年 8 月より米国アリゾナ大学植物科学部植物病理学専攻（University of Arizona, School of Plant Science, Plant Pathology）の Ph.D. コースに進学します。今回の報告書では、私が留学を志したきっかけから志望校合格までの過程について、苦しくも新たな一步を踏み出した良き思い出の回顧も兼ねて書かせていただきます。

## 留学を考え始めたきっかけ

私が海外の大学院への学位留学を考えたきっかけは二つあります。まず一つ目は、大学入学直後のクリケット体験でした。一見学位留学に関係ありませんが、当時海外を気にも留めていなかった私の視野を大きく広げた経験でした。クリケットは英国やインドで人気のスポーツであり、野球の原型とも言われています。小学校から野球を続けている私はクリケットに興味を持ち、大学入学後に体験として地域のクリケットチームに参加しました。わくわくしてフィールドに向かったところ、参加者は外国の方しかおらず日本語での意思伝達は不可能でした。しかし、当時の私は英語なんて喋れなくても生きていけると思っており、語学のアウトプットを軽んじていたので、簡単な自己紹介すらできず仲間に入れませんでした。この悔しい経験から、私は意識や興味を海外に向け始めました。

続いてその年の冬にもう一つのきっかけが起こります。それは、北海道大学出身の鈴木章先生のノーベル賞受賞でした。ここで私は、俺もノーベル賞取りたい！と思ったわけではありません。ふと鈴木章先生のプロフィールを見ると、米国のパデュー大学で研究を行っていたとありました。思い返せば 2008 年にノーベル賞を受賞された下村脩先生もプリンストン大学での研究実績があったような。海外の教育ってそんなすごいのか？ と疑問が湧いてきました。

## 留学を決定付けた交換留学

海外の教育を受けてみたいと考えた私は、大学 4 年時に米国ウィスコンシン大学へ交換留学を試みました。ウィスコンシン大学は私の専攻である農学においてトップスクールです。そこでは、学生のやる気や先生の教育への熱意に加え、常に研究計画や研究発表を想定した授業等、日本とは全く異なる教育の意識や教育の重要性を学ぶことができました。交換留学を終えて日本へ帰る頃には、海外の Ph. D. コースでもっと学びたいという意志が固まっていました。

## 帰国後 Ph. D. コース出願まで

TOEFL を在米中に済ませた私は、2014 年 6 月の帰国と同時に、私が興味のある研究を行っている先生をリストアップすることで出願校選びを始めました。あなたの研究室に興味があるという旨のメールと CV を送りつけ、1 週間返信がなければ何回でも送り続けることで、ほぼ全ての先生方と連絡を取ることができました。また 8

月下旬からは GRE という、出願に必要なテストの勉強を始めました。私は数学分野に的を絞り、数学関連の英単語を覚え、公式問題集を解くことで試験に備えました。

GRE を受け終わると、留学に関する奨学金の申請準備に取り掛かりました。船井情報科学振興財団（以下、船井財団）の奨学金では、大半の奨学生は情報科学や機械系の学生であるのに対し生命科学分野の募集人数は若干名と少なく、選考委員も情報や機械系の先生方だったため、できるだけ簡潔に研究計画を書くことに集中しました。結果として、農学分野では初めての船井財団の奨学生に選ばれたことを誇らしく思います。

並行して、Statement Of Purpose (SOP) と呼ばれる志望動機書の作成を行いました。英語に関してはウィスコンシン大学在籍時のルームメイトや友人にネイティブチェックをお願いしました。内容に関しては、ウィスコンシン大学の剣道部でお世話になった日本人のポスドクの方に添削をお願いしました。その方には何度も添削をしていただき、本当に感謝しています。SOP を書く作業は、自分の思考を整理しては書き、書いては見直し、また書き直しというステップの繰り返しで本当に辛いものでしたが、考える力が養えたと感じています。また、推薦状は学部時代の指導教官とウィスコンシン大学の授業でお世話になった二人の先生に書いていただきました。

## 出願から合格まで

最終的に出願したのは 7 大学であり、出願に際し重視した点は希望する先生の研究内容と教育熱心さでした。出願は 12 月初旬から始まり、12 月末には全ての出願を済ませ、後は結果を待つのみとなりました。1 月中旬にはカリフォルニア大学リバーサイド校から合格通知を受け取り、2 月中旬にはウィスコンシン大学、オハイオ州立大学、アリゾナ大学の skype 面接を受け、それら全てに合格しました。第一志望であったウィスコンシン大学とアリゾナ大学から合格通知をもらったところで他の大学には入学の意思がないことを伝え、出願プロセスを終えました。最終的に、希望する先生の教育への熱意に感動したアリゾナ大学への入学を決意しました。

## 最後に

私の場合は交換留学が 4 年時であったため出願準備期間が半年と短く、農学分野において日本人の留学生数が非常に少ないため、全てが手探りの状態での出願でした。この報告書が私と同じような立場の方の助けになれば幸いです。ただ、実際に出願して感じるのは、準備期間が短くとも、たとえどのような分野であろうと出願そして合格は可能であるということです（当たり前ですが、意外と悩むところだと思います）。また、今回の出願にあたり、船井財団の選考委員の方々には SOP の書き方等を指導していただき、感謝しております。奨学金を含め、船井財団のお力添えなしでは第一志望の大学院合格は難しかったのではないかと思います。これから約 5 年間、アリゾナでの学生生活で自分がどのような顔付きになるのか、どのようなキャリアを歩むのか自分自身楽しみで仕方がありません。最後に、大学院進学を応援してくれた家族へ感謝を。ありがとう。